

令和４年度 稲沢市地域自立支援協議会 第１回地域生活支援部会 議事要旨

〔日 時〕 令和４年５月２６日（木）午後２時～午後３時

〔場 所〕 稲沢市役所 第１分庁舎 ２階 第３会議室

〔出席者〕 地域生活支援部会委員８人、事務局３人

〔欠席者〕 地域生活支援部会委員２人

あいさつ（事務局、部会長）

新委員から自己紹介あり。

〔議 事〕

１ 協議事項

（１）令和４年度の作業部会について

①地域生活支援部会作業部会構成（案）について説明（事務局）

部会長 医療的ケア児支援ネットワーク会議について、従来より、子育て相談室なのはなか  
ら参加されているが、今回から部会委員にもなられたので部会委員として参加し  
ていただくことで良いか。（異議なし）

②作業部会の進捗について報告（副部会長）

質問なし

③その他

部会長 運営会議と本会議での地域生活支援部会に関する意見を報告する。本会議では２  
点意見があり、災害に関して避難計画が地域で立てられていないが完璧ではなく  
ても、安心が届けられる事をポイントとして進めてはどうかという意見があった。  
作業部会もいつかは設置したい。次に地域生活支援拠点について、愛知県の協議会  
で手引きを作成したとのこと。今日の資料にはないが、作業部会で配布する。評価  
をやるということで話しているが、評価基準が含まれているので活用してほしい  
という意見。緊急支援のためのコーディネーターをどうしていくかも考えてほし  
いという意見も出ている。次に運営会議では、本会議委員である尾張西部圏域地域  
アドバイザーが、圏域の医療的ケアのアドバイザーも担われ、尾張西部と、あま圏  
域を担当されることになり、医療的ケア児支援ネットワーク会議に参加したいと  
いう意見があった。良い意見をいただけたと思う。地域生活支援拠点については、  
緊急の事例があまり出ないのは、本当はもっとあるが、家族や事業所が背伸びして  
支えているから。相談員が緊急時のリスクがあっても挙げられていない事例を皆  
で考えてみてはどうかという意見があった。運営会議には相談支援事業所連絡会  
の代表も参加している。実際にそういう事例はあるので、連絡会でも検討していく  
こととなった。あとは、地域移行とって、長年病院や施設にいる方が、地域に移  
ることが定着していない。地域移行には、体験するという過程がある。その体験を、  
拠点事業にある体験と一緒にできないかというご意見であった。そういうことも

具体的に作業部会で話をしていきたい。医療的ケア児支援ネットワーク会議は、看護師派遣を考えることは法律ができたことで、協力する形になった。法律ができてもすぐに受け入れできるわけではないので、早い段階からコーディネーターに繋がるために分かりやすいフローチャートを作る。事業所だけでなく保護者の立場に立ち、見やすいものを作成したらどうかという意見があり昨年度は終わった。

委員 A フローチャートはできるといいとは思いますが現実問題、多岐にわたるとなかなか難しいので、コーディネーターの存在を周知し、まずつながることができるものがないのでは。

委員 B こういう機会があるとコーディネーターのことや情報を得て、繋がりもできる。情報を出して皆で考える事ができるのが良い。相談する場所が分かるよう情報を出して力を入れないといけないと思う。

委員 C 以前、母子通園施設に勤めていた時、吸引が必要なお子さんがあり、保育園には体験はできたが在籍が難しかった。3月まで保育園勤務だったが、園長会議では保育課の統括主幹からこの会の情報を聞いていたので園長クラスも知らないことではない。今後そういうお子さんたちの力になれるよう関係機関と連携していきたい。

委員 D やはり相談する場所が一目でわかるものがあるとよい。悩まれている方はある。気軽に相談できると良い。

部会長 地域生活支援拠点についての作業部会は、緊急時の体制や体験の機会の確保をやってきた。取り組み方は見えてきたが、緊急のケースが発生した場合は関係の方に来ていただき、振り返りも行っていきたい。

委員 E 昨年度は他市の評価表があるという話もあったが、県の協議会で作成したものが使えるということになり良かった。事例を検証し振り返りをして足りない物を検討していく。先週、相談支援事業所連絡会で事例検討し、グループワークができたので良かった。皆で問題を挙げて検討したい。

委員 F 相談支援の方が一番リスクを把握しやすいので、事例を挙げてもらい対策をして安心してもらうのが良いと思う。出てきた事例は検証して繰り返してやれると良い。数年後には完璧になるのではないかな。

委員 G 病院なので、何かのときは協力する。今年度、事業所として拠点登録もした。

部会長 障害児支援については、サポートブックと児童発達支援センターを進めている。児童発達支援センターは子育て支援課が関係機関に意見を聞いて進めている。サポートブックは3月と4月を活用強化月間として始めた。どうしたら書き方が上手くいくかと話したら、保育園は入園説明を YouTube で作成してわかりやすいという意見があった。

委員 B どこまで見ていただいているか。一度でも開けば閲覧になる。紙面だとすごい文字数だから読みたくない人もいるが若い人はネットを見るということで開始した。思ったより閲覧は多かった。

- 委員 D 事業所のアンケートをサポートブックに切り替えようとしたが難しくてどうしたらいいかと思っている。活用月間はどうかだったか。
- 事務局 配布数を調べてた。令和 3 年度中の配布は 80 冊程度。今年の 3 月 4 月で約 30 冊配布した。事務局の感覚として保育園の先生からの問い合わせが多く、ありがたいと思った。
- 委員 B 障害児保育の方には原則案内しているので、年度替わりで増えていると思う。冊子を出していくことも大事だがその後が大事。基本は保護者が記入するので保護者への書き方指導で、確かに書けない親もある。メリットは保育園や事業所を利用し、違う場所で支援を受けるときに違う見立てで支援を受けるのでは意味がない。そこを繋ぐ意味で支援計画を挟みましようとなったが、挟んでも出さない方がある。サポートブック出しましようという事にした方が良い。書いて終わりになっている。書き方は YouTube であっても良いが、メインは支援者側の活用。支援者から声をかけられれば出しやすい。事業所ではどうか。
- 委員 D 半年に 1 回計画書を作成していて、サポートブックをそういったときに活用できないかと模索しているが、現状は使えていない。
- 委員 B 保育園でも同じこと。保育園ではこうしている。事業所ではこうしていると、ずれてはいけない。書いたものを活かしたいという気持ちはあるのもう少しできないかと思う。
- 委員 A 活用強化月間なので、活用について周知しようということだった。実際には、何回見せたか、ということが分かったと良かった。
- 部会長 配布して終わりではなく活用の仕方も深めていくことも検討していきたい。
- 委員 C 確かに、保育園の活用は入園の時や、進級の時。事業所を利用する方が増えていて、担当者会議を開くが、サポートブックを通して支援を見合わせることはしていなかったと思った。事業所と保育園で生活スタイルが違っていると、事業所ではこうです、保育園ではこうです、という報告になり、本来の意味であるお子さんの共通理解と支援という意味では、双方の狙いが違う視点があるなら摺り合わせすると良いと思った。活用という事に視点を置くと、保育園は最初にコピーをいただくだけになっているので、そういうアイテムとして活用もできる。
- 部会長 事業所連絡会もあるので周知していくと良い。
- 事務局 相談員が対象になるが、障害児支援計画について研修を予定している。サポートブックの活用についても内容に含める予定である。

## (2) その他

- ・災害時の対応等に関する課題について

- 部会長 災害についても作業部会が立ちあがるまでは部会の中で検討をしていく。昨年度まではどういふことがあるか会議の中で報告して意見をいただいていた。今年は、障害者計画のためのアンケートを行うということなので、災害のことについても

触れていただくと良いと思う。準備期間として取り組みができる。

事務局 今年度と来年度で、令和6年度から11年度までの、市の障害福祉施策の基礎となる障害者計画を策定する。配布したものが前回の概要版。その中で今年の夏頃に市内の障害があるかた1,500人、手帳がないかた1,500人の合計3,000人を無作為に抽出してアンケートを送付する予定。意識調査をする機会となる。参考になるデータが取れればと思う。今後質問項目をどうしたら良いかということで、調査票をお送りさせていただくので、御協力いただきたい。